

平成 29 年 10 月 26 日(木)

読売新聞に記事が掲載されました

欧州の白内障学会で最高賞

水戸の眼科医 手術用チップ開発

小沢眼科内科(水戸市)の小沢忠彦院長がポルトガルのリスボンで行われた「欧州白内障屈折矯正学会」でグランプリを受賞した。受賞対象は、白内障手術を行う際に濁った水晶体を超音波で砕いて除去するのに使う装置先端部のチップの開発で、安全性が高いことなどが評価された。

小沢院長によると、白内障手術では、濁った水晶体の中身を取り出し、新たに人工の眼内レンズを挿入する。その際、角膜などを切開して装置を入れ、超音波で水晶体の中身を砕く必要がある。

その装置先端部の新たなチップの開発を、約5年前から進めてきた小沢院長の

アイデアをもとに、福井県の医療器具製造企業「シヤルマン」が試作品を作製。チップ先端内部のプレート(約1ミリ)が振動を発生させることなどで、他の組織への影響を抑えることに成功したという。小沢眼科内科や県外の医療機関で既に活用されており、小沢院長は「このチップで白内障手術の事故を少しでも減らしたい」と話している。



開発したチップを見せる小沢院長